

近くの川には

どんな魚がいるんだろう

かながわの川にはヨシノボリ類・ドジョウ・ギンブナ・コイなどの魚が多くみられます。まちのなかや山を流れる川は魚の種類は少ないですが、相模川や酒匂川、鶴見川のように大きな川では30種類以上の魚がすんでいます。ここでは、かながわの川でよくみられる魚をあげました。(アユやコイ、フナのように放流がよく行われている魚はのせていません。)

川にすむ魚

-  ヤマメ
-  ニジマス
-  カジカ
-  アブラハヤ
-  ヨシノボリ類
-  ウキゴリ
-  オイカワ
-  ドジョウ
-  ヌマチチブ
-  モツゴ
-  タモロコ
-  マハゼ

かながわの魚の分布



湖や池にすむ魚

-  ブラックバス
-  ゲンゴロウブナ
-  ワカサギ

近くの川にはどんな

底生動物がいるんだろう

かながわの底生動物の分布

底生動物



カゲロウ類



カワゲラ類



トビケラ類



ブユ類



ユスリカ類



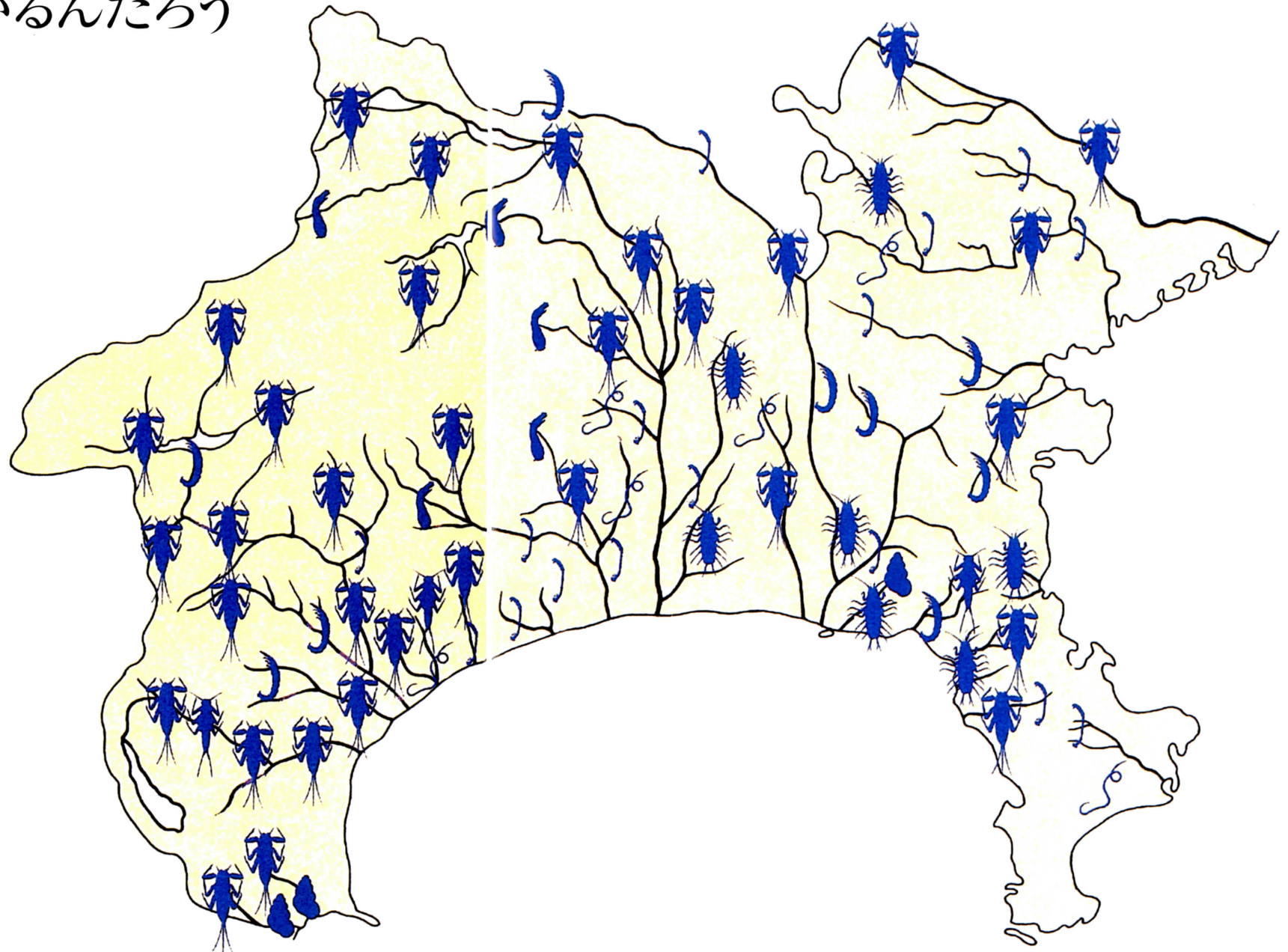
コモチカワツボ



ミズムシ



イトミミズ類



さあ、 川に行ってみよう!

底生動物や藻類で川の水質を調べる

川にいる生物とくに底生動物や藻類は、正しく観察すれば水の汚れぐあいを見わかる“ものさし(指標)”として利用できます。川の水質の種類は、どの川のどこでも同じとは限りません。川の水質に応じて、それぞれに適した種類の生物がすみついているからです。例えば、水がきれいな川と

よごれた川では、生物の種類もかなりちがいます。そのため、すんでいる生物を調べれば、反対にその川の水質を知ることのできるのです。この方法は、化学的な方法より簡単にできます。では、その観察法を詳しくみていくことにしましょう。

底生動物の

ウォッチング

〔テクニック1〕採取場所と用具、採取方法と調べ方

調査に適した場所

- 水の深さがひざくらいまでのところ。
- 水の表面が波立つくらい流れが早いところ。
- 川の底にミカンからスイカくらいの大きさの石が多いところ。
(川の底が泥や砂のところしかなければ、そこでもよい。)



用具



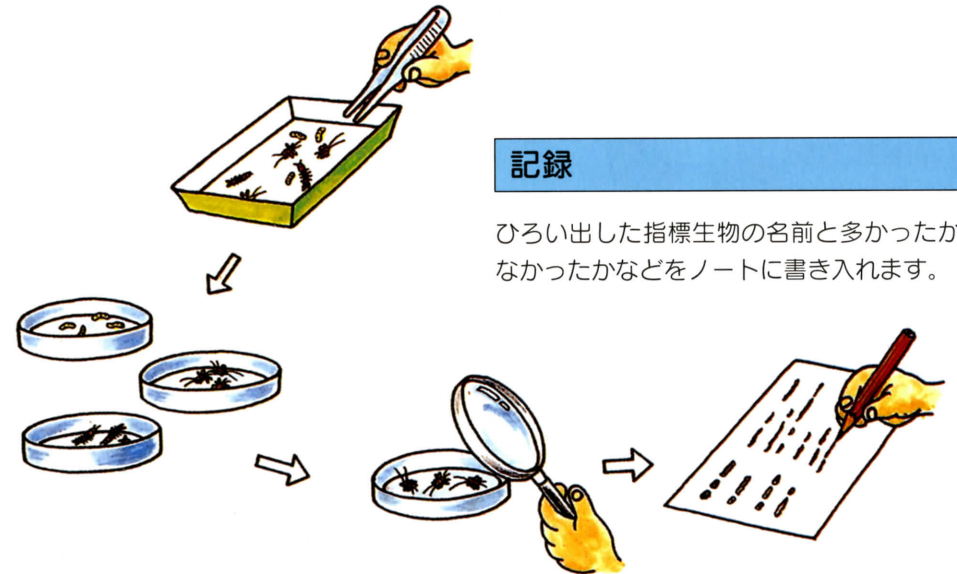
採取方法

- 1 川の流れに向けてアミを立てます。
- 2 アミの前の石の表面や、石と石の間にいる虫をアミの中に手で流し込みます。
(アミがない場合は、川底の石をゆっくり持ち上げ、石の表面にいる生物をバットにとります。)



調べ方

- 1 アミの中の生物をバットの中に入れます。
- 2 バットの中の生物を虫めがねでよく観察し、指標となる生物をひろい出して調べます。
(指標生物は、22ページ～27ページを参考にしして見わけましょう)



記録

ひろい出した指標生物の名前と多かったか少なかったかななどをノートに書き入れます。